

1月の暮らし

酒による交通事故の
防 止

残り火に注意

広報かわにし

発行所 川西町役場 編集人 星名四郎
 発行所 川西町役場 印刷所 星名四郎
 (町長 中村壮吉) 印定 星白1 南風5 郎社円

—人口の動き—
 1月1日現在
 男 6,182人
 女 6,561人
 計 12,743人
 世帯数 2,621世帯



1965

年のはじめに

かわにし郷の船出を処女雪がおおい
 一万有余のけがれない心は
 数えて十年の町づくりをスタートした

広大な山なみ、白い森、白い田原
 二千六百の白い屋根の下から
 新しい建設の歌ごえがわきあがる

もつとゆたかに、しあわせになるために
 町びとよスクラムをくんでゆこう
 歴史の歯車を悔なくまわすのだ

一月の行事

- | | | | |
|-----|-----------------|------|-------------|
| 一日 | 元旦 | 十二日 | 農業計画説明会 |
| 四日 | ご用始め | 十三日 | 中屋敷婦人学級俳句大会 |
| 六日 | 消防出ぞめ式 | 十五日 | 初議 会 |
| 七日 | 田戸老人学級
選管会議 | 成人の日 | お年玉はがき抽せん会 |
| 九日 | 岩瀬婦人会 | 二十日 | 木落婦人会講座 |
| 十一日 | 新町道路祝
大倉婦人学級 | 大寒 | |
| | | 二十一日 | 消防幹部会 |
| | | 二十二日 | 中間農業センサス説明会 |
| | | 二十九日 | 橋婦人会役員会 |

町議会報告 三十八年度決算を認定 十二月定例会終わる

十二月定例会町議会は、十二月八日に招集され、十四日までの会期七日間に、一般質問のほか、決算認定を含めて合計十一件の議案及び請願を審議決定した。

三十八年度決算は、一般会計、特別会計五件を合わせて才入二億三千九百六十二万二千四百五十二円、才出二億三千三百七十七万一千八百八十一円、差引六百九十九万八千六百三十九円の不足となっている。これは、国保及び診療所の赤字千三百三十二万一千四百五十七円と、普通会計及び農業共済事業会計の黒字を相殺した結果の赤字である。

その他の議案としては、インフルエンザ予防接種の手数料について手数料徴収条例の一部改正、退職手当組合を組織する地方公共団体数の増減についての議案をそれぞれ一件、あとは請願が継続審査分を含めて六件が上程され、今期中に委員会で審議に付されて審議の結果四件が採択、二件がさらに継続審査となった。

一般質問

構造改善で活発な質疑

農協合併

促進せよ

(山家晋平氏) 最近経済情勢の變動により民間はもとより、農業団体においても経営の合理化、体質の改善の目的のもとに企業合同あるいは大同団結が行なわれている。しかるに最も重要視されるべき町の農業団体が旧態依然何らの対策がなされていないのはいかなる理由に基づくか。近時客細農業経営の行きづまりから離農する者が相續き川西町農業振興のため盛慮に堪えない。最近スプリングラ

(山家晋平氏) 最近経済情勢の變動により民間はもとより、農業団体においても経営の合理化、体質の改善の目的のもとに企業合同あるいは大同団結が行なわれている。しかるに最も重要視されるべき町の農業団体が旧態依然何らの対策がなされていないのはいかなる理由に基づくか。近時客細農業経営の行きづまりから離農する者が相續き川西町農業振興のため盛慮に堪えない。最近スプリングラ

実現の暁には農業経営の一大革命といわれている。町においてはすみやかに農業の構造改善をし、農民の生産意欲を高揚し町農業発展に寄与することが急務であるが、これらの事業を進めるにはその団体である農協を合併し、大資本の中で事業を行なわなければならない。すでに十日町市をはじめ各町村とも合併を完了し、着々その実をあげている。本事業の達成のためには町長は卓越せる政治力と英断をもつて努力されんことを要望する。これに対して町長はいかなる構想をもつているか。

(中村町長) 農協の組織は戦前における国農会、県農会、町村農会と一貫性のあつたものが、この組織を通じて戦争政策推進に大きな力となつたといふことで、アメリカの占領政策によつて細分化された結果、国農会という大きな力が消滅してしまつて、中央会という形でわずかに上下の連絡をとつて現況である。したがつて農協合併というのは組合員の総意によつて合併すべきものたといふのがいまの行き方である。

農協以外のすべての立場の人たちを網羅した町村合併さえできるのであるから、農業者だけの集合体である農協は簡単に合併もできその後の経営もうまくいかなければならぬといふのが表裏の理論なのだ。農業県である新潟県が一番農協合併を推進しなければならぬので、県や出先機関の長岡農業事務所などから実情を調査してもらつた。また合併要領や構想についても一応案を作つたのであるが、その線に添つて合併すべきでないかといふのが今の段階である。

山家議員のいうとおりこれから単協ごとに調べて、それに基づいた合併構想を進めなくてはならぬ。その案については財政上の問題があつてまだ一般に公開することを控えなければならぬので、単協のほうとも相談して白書と称する案を出した上でご相談を願うことにならう。

構造改善は四十一年までに着手しなければならぬ期限つきのもので、いま調査期間ということになつてゐる。それで農業委員会委員と事務局員が主体となつて調

査中だ。四十年には一応最終調査ということになるので部落ごとにもまわつて農業構造改善や農業基本法についてそれぞれ啓蒙運動といふか指導講習会のようなものをもたなければならぬといふのが現在農業委員会では構造改善の研修会をもつてゐる。遺憾ながら特殊産業を主体としてゐるところだけであつて特殊産業のないところは所得がその経費をカバーできないで構造改善事業を中止しているところも相当ある。

私もものような積雪単作地帯はなかなか基盤整備に金がかかるのであつて、現在は七割を国で助成しているが実質的には半分そこそこではない。雑費の多くかかる積雪単作地帯では半分にも至らないといふことで基盤整備は十割補助してもらわなければダメだといふ全国運動をやつてゐる。

近代化資金については半分でいいと思つても基盤整備は九割にならないと手をつけられない。もう一つ困る資金面があるのだ。いま農業委員会を通じて借りてゐる農業者の金が四つある。それが最高五十万円であつたのが八十万円まであつた。利率は非常に安く年賦償還である。ところが町で三十九年度末にこれらの借入は一億円に達すると思う。それを返還する時期がちょうど農業構造改善の基盤整備あるいは近代化資金を返還するのといつしよになる。りつばな農地にし、近代化設備を返還するときに返還する金がなく、田んぼを売つて返還するよ

うでは改善も逆になる。農業構造改善はどのような形を手をつけなければいいかといふと、平場は構造改善をしなくとも百姓は成り立つ。近代化資金も相当借り、それだけにいい機械もあつてゐる。仙田地区のようなところが一番先に構造改善をして、よかつたといふことでなければ、町の構造改善の実は上がらない。

(小川産業課長) 構造改善は生産増強よりも合理化対策を考へるということではないか。合理化対策である。合理化対策に切り替へないと零細農民は浮はないといふ考えである。

いま離農促進対策資金という一戸の農家について規模によつて連うが二百万を貸すから離農せよという制度が出てきた。さらに農地を売つて出ないといふ。これは農地管理事業といふものを作るからそこに農地をあすけて、政府が離農者に金を貸すから出て行きなさい。そしてこの農地管理事業は役場になるか、農協になるか分らないが、これが設置される時相場で賣つてから、残つた農民に売り渡して規模の適正化をはかる計画なのだ。しかし現在は、いつたん買収してもいい手のない農地はどうするかという問題があり、このような時に、町の農民はどうあるべきかを左右するのは非常にキケンなことだと感じられる。構造改善をするにも今日ひきつづいてゐる人口の流出を考え、流出を防ぐ手段としてのどんな産業を振興させるかということがポ

イントになる。産業をおこすということは経済力の増進によつて産業の形態を変えてゆくといふことである。しかし町の自力だけではなかなかうまくゆくものではない。まだまださわぐと手をくたすといふことにはならないと考へる。

(山家晋平氏) いまの説明だと、はつきりした計画がないようだ。現段階ではなりゆきにまかせる以外方法は無いといふことか。

人口激減は

町ぐるみで対策

小林与作氏

第一点、町の人口が流出して、この状態がこんど続くのではなからうかといふことは憂慮にたえない。たとえ国策等による自然現象であつてもなるとかしてこの対策を構しなければならぬ。

人口政策は一朝一夕にはできないが、これに対応するだけの考へを町ぐるみでもちながら、人口の流出を最小限にいとめ、経済交流をはなやかにして町の発展を維持してゆくような努力がほしい。この点ベラン町長に町の発展要素をひきたすようなあらたな構想を期待してゐる。はたして人口流出を最少限にいとめるような方策を考へてゐるのか。

また人口政策と関連して、副業の導入という考えが当局にあるかどうかもおきかせ願いたい。このことでは、農業構造改善とともに余剰労力を振りむけられる副業指導が望ましいので、産業課の見解もたしたい。

次に道路交通行政であるが、地域発展とは切りはなせない重大問題であつて、幸い北越線が着工線になつたという明るい見通しは同慶のいたりである。が、はたして千手地区に駅はできるのだろうか駅を誘致する運動が必要ではないのか。

栄橋もできあがり、交通網は従来と一変する。町長も非公式ながら「いすれ柏崎、十日町、六日町を結ぶローカル線のできる時代がくる」と言明していたが、仙田、千手を結ぶローカル線ができるといふ運動もあつてよい。

これらを今後どのような力の入れ方をするのか、地域の発展とからんでおろかがいする。

早期に

北越線実現

(中村町長) 人口の流出防止といつても、豪雪対策とか道路行政の推進等、答えはほぼ一貫性をもつてゐる。

学校の例をとつて考えてみるとこの豪雪地帯では、いい子どもはみんなよそへ行つてしまつて、優秀ならざるものだけが残るのではないかという心配がある。

いかに教育環境を整備し、良い先生が着任しても、学問をしたか

げくほとんど大都市に吸収される実情である。

田舎の市町村長がよい所へ行くように奨励するのをもうしななければ田舎の世帯は食つて行けないのがまた実情なればこそである。これをどうすることもできないのがいまの人口流出の第一の悩みともいえる。

現在、地方財政は医療費の問題学校の整備等の問題でヒツパクしている。田舎の町村では金にいくら苦労してみても人間はちつとも残ろうとしない。

また、百姓はキライだ、キライな百姓の所には嫁がない、嫁のないところになんかいられないという理屈もある。

かように複雑な人口流出の問題を解決するには単に質疑を行つたとか、町長はじめ役場の仕事だといふことではなしに、全町民とくに代表たる議員の方が中心になつてこれを解決してゆく以外道はない

北越線の問題についてはこの十日に四十年度の予算獲得と、技術的な段どりについて相談しようという計画があり、助役から出席してもらつて予定だが、いすれにして

も思つたよりは早期に鉄道がしかれると思ふ。ただ、いざ鉄道がされる段階になつて「われわれの農地は簡単にゆすれない」といふ例が多くあつて、それが一番困る問題だといふ困窮の話しもある

つたので申し上げてみる。(小林与作氏) 構造改善をとり入れるには改善後のことまで考えて

かからねばならぬ。基盤が整備され労力も省力化された上で職業の指導をマツチさせ

れば、仕事の無いものはどこかへ行くがよいというようにすることにはならないと考えるのだが、産業課長の見解がどのようであるかうかがう。

(小川産業課長) 構造改善は他に波及する問題が多い。基盤整備を考へなければこんどの農民像はできあがらない。たとえ基盤整備は金がかかつてもやらねばならぬと考へている。

だが、整備そのものが増産のためではなくて、仕事をやりよくし手間のかからぬものにするのだから、所得の面で影響はさしてないとする、金のとれる労力をどこにむけるかという宿題が生ずる。

これは農業以外に工業をおこすか、機を盛んにするか、あるいは工場誘致でもするか、それとも道路を無雪化して通勤圏拡大をはかるといふことになる。とくに通勤圏の拡大によつて経済圏域というものを広げた考へで進める必要がある。また、開墾や畑地の有効利用による家畜の増とか、くり、ブドウの栽培等で基幹作目以外の作物を入れる方策もあろう。

家庭工業に眼をむけるのもよろうが、農家の立場とすれば、家畜、養蚕、山林の活用や肥育牛の多頭飼育にもふみ切る方がよく、構造改善もこれらのどの項目をと

り入れるかという問題に及ぶ。タバコは入れてはならないといふのではないが、生産の枠が決まつていて難点がある。

構造改善には融資もあるし、補助金も四〇五割である。ただ基盤整備だけは国が五割、県が二割あ

せて七割であるが、この場合どうしても協業にならざるを得ないような仕組みで、一貫した施設ができないと許可がない。たとえば、基盤整備によつて米を自作とした場合、トラクターを入れ、稲刈機

十日町市合併

いま機運醸成は無理

播種機も入れ、ライスセンターも考へるといふ、米作における一貫した施設計画でなければ許可して

(押木二吉氏) 第一点、総文委員会の学校視察のたびに学校側から強く要求されるのが、完全給食の実施とプールの新設である。

これは児童生徒の体位向上とスポーツ振興の意味から急務であると考え。町財政の容易でないおりに、年次計画として給食施設の完備、プールの設置を考へ

があるかどうか。第二点は十日町市との合併問題である。栄橋の完成とともに仙田十日町線の県道編入とか、北越線や観光道路の問題等の交通事情によつて町の発展は十日町市と大き

なつていける。また、十日町織物の出機の普及は、農家の副業として見のがせな

い財源となつてゐる。このような見地から、近い将来十日町市との合併の考へがあるかどうか。なお、町長は任期中にそうした話し合いの機会をもつ考へはないのか。

給食施設順次完備

くれない。計画そのものが大きいから、部落ぐるみの協業といつた型で大きな金を融資してもらわなければならぬ事態となる。

(中村町長) 給食施設やプールの施設は時間の問題だろう。町でも順次完備してゆくが、この給食の問題ひとつをとりあげても一、二問題として残るものがある。ひとつは相当な父兄負担がかかるという点である。千手小では現在月五百円の給食費が児童ひとりあたりの父兄負担となつて

また、給食婦は本来なら町の正式職員に採用しなければならぬのだが、川西町の場合約二十人職員の定数が多く、寄宿舎の炊事婦

冬の使丁も同様、地方交付税の基礎算定から考へた隘路があつて逐次正式採用はしたが、いまのところためである。プールの問題も、作るならつばなものを共同で作るべきではないかと考へるので、議員を中心に将来のプールのあり方を研究しながら実現につとめたい。

次は十日町との合併問題であるが、合併というものはお互いが幸福になるといふことになれば気運は自然にできあがる。

元の千手と元の十日町というも

のは以前から利害の一致した点が多く、特に栄橋や北越線ができるということはずべてが直結した利害関係をもちますので、千手と十日町だけを考へると互いに幸福になれる環境をそなえてゐるが、これにまつたる地区が問題となつてくる。千手だけでなく川西町となると必ずしも利害は一致しない。

十日町市全域と町の全域を考へてみると予断を許さぬ状況なのでいま合併の機運を急に醸成するといふわけにはいかない。

お互いに話し合うのは結構なことだと思ふ。すでに十日町と川西の議員は一切の問題をめぐりにして話し合つた経験もあり、このよう

な機会が重なり、利害もすべて一致するようになり、お互いに幸福になる環境ができたときに無理のない合併をするべきだと思ふ。高速道路の問題も関連があるの

で助役から話してもらつた。栃尾から長岡へ出て三条、新津新潟という案と川西から小千谷へ出て長岡も関原から与板へ行つて

与板から弥彦へ出て、海岸を新潟に行く案があるようだ。(田口助役) この自動車高速道路は昨春法律が通ると同時に、期成同盟会を作り運動を開始した。起点は東京で、川越、高崎市附近、長岡市附近新潟という線が結

一般質問(つづき)
ある。

しかし、本当は一本なのであつて上越西線と同じような形になつたわけである。いまは二つの運動をやつては、いまの町長のいうような原案なのである。これがはたしてどうなるのか運動の焦点となつてゐる。大田市は二十九メートル、一番低いところで三メートルの盛り上りという構想である。
(杉本教育長) 県で長期総合教育計画を立案、本年が第一年度であるので、これに感して、町でも実情にそつた計画をもつてゐる。

まず就学前児童の教育がある。これは幼児教育であるが、義務教育年令の低下される時代がくるといわれて、教育学者も幼児教育を非常に重要視している現在、この施設について考へてゆく。
二番目に給食施設の拡充、これは義務施設という空気をひかえていまから準備をすすめるつもりだ。学校プールの施設も年次計画として整備を進めたい。

四番目は、中学生の体位向上のため、屋外運動場の整備拡充の問題を考へていかなければならぬ。五番目に寄宿舎の増設と教員住宅の新築がある。これはへき地教育の振興の意味から重要である。住宅の件は、県の共済組合の長期年賦債による建設も可能である。

次は特別教室の施設設備であるが、経費の許す限り年次的にやつてゆくのが、基礎的な指導上必要である。
その他特殊学級の問題があり、来年度はこれを川西中に設置して

この面の実をあげたいと考へる。(押木二吉氏) 昭和四十二年度から給食の完全実施のように新聞報道にあるので、国庫補助の面について説明願いたい。
(杉本教育長) 施設設備の新設に対して国の補助金が交付される基準もあるが、予算に枠があるの

行政に計画性は必要 五カ年計画たててもよい

人事の刷新と 職員の待遇

(田中三郎氏) 質問の第一点昭和三十八年度の決算は、帳面上では五百六十九万円の繰り越しになつて、財政白書を見ても、町債が五千万円にもなつてゐる、予算面の操作上、翌年度予算に相当の食い込みをしてゐる。これは、それだけ大きな事業を履行したということであるけれども今後新しく昭和四十年年度を第一年度とする五カ年計画の発行によつて、行政の円滑な運営を行なう考へはないか。

第二問、第一点は庁内人事の刷新について。一カ所に長くおくとすることは、専門的熟練した職員を作ることにはなるが、一方マンネリズムに陥り好ましくない。人事の明朗化からも希望職場への転任を考へなければならぬ。庁内人事の刷新代謝ということについてどのように考へてゐるか。第二点、職員の待遇問題について。第一として、給与、昇給昇格その他の面でのデコボコは相当是

で、この枠と、年度ごとの開設予定学校数等との関係から、多少の差異があるようだ。
(押木二吉氏) 完全給食の義務化のあかつきにはどうなるのか。(杉本教育長) まだ決定してないので申し上げられない。

正されたと思うが、給与は他町村と比較してどのようになつてゐるか。また当分給給の是正についてはどうか。②初任給は他に比べてどのような考へで制定されてゐるか。③学歴、職歴等をどのように給与に算定してゐるか。④昇給昇格の実施は規則によつてゐるか。⑤四等級に分かれてゐる給料表について昇給期間はすべて同一で、昇給間差四百円の人と二千円の人とも一年一度であるが、初任給に不利なこの点を改める考へはないか。⑥超過勤務について事務的な超勤は判定がむずかしい。その取り扱いはどうか。なお、公民館、社会教育主事は夜間勤務が非常に多いこれらの待遇についてどう考へてゐるか。⑦川西町では運転手を単純労働的な取り扱いをしてゐる他官庁では運転手に制服制帽を貸与して有利な待遇をしてゐる。これらについてどのような基準で考へてゐるか。⑧年末手当とボーナスの問題が出てゐるようであるが、これをどのように処理していく考へか。⑨職員の勤務状態について一部に批判がある。こ

れらについてどのように監督し、訓諭を与へてゐるか。
最後に、交通事故防止について都市の交通モニター会議においても、学校教育と社会教育に重点をおいて啓蒙しなければならぬという声があつた。交通対策協議会長としての町長は、どのようにして川西町住民の交通事故防止にあたられるか伺いたい。

(中村町長) 最初に、五カ年計画の樹立であるが、地方自治の計画行政については国とマッチしてやらなければならない。道路整備五カ年計画とか、へき地教育五カ年計画等々それぞれの分野で計画がある。それらを一つにまとめて五カ年計画を立ててもいいわけである。五カ年計画をやるとすれば財政措置の裏づけがなければならぬが、年々財政事情が変わつてくるので、実行に移されないものもある。最初私が町長になつたとき、計画の三分の一ぐらゐ実施したかどうか、しかし、行政の計画性ということはいふことだと思ふし、ことしの当初予算も、それぞれ委員会に付託して検討し、町なりに計画をしたのである。いすれにしても計画というものは持つべきだと考へてゐる。

しているのだから、県の全町村が自治体にはいつて話し合えば問題は無い。しかし、いまのところ県下九十六町村のうち自治労へはいつてゐるのは半分をこゝなのだ。いま田中さんのいつた大部分は自治労があげてゐるのだ。それで、町村会でも自治労と話し合い、自治体にはいつていようといまいと九十六町村全部が団体交渉の結果を履行しようといふかといふので、正副会長に一任したのだ。ところが、会長の中条町も副会長の濱町、牧村も自治労にはいつていない。中条町は職組もないが、とにかく正副会長がいろいろ折衝してゐる。

人事交流は、規模の小さい町村にはめんどうなのだ。結局最後には町村も定年制になると思う。町村合併で流れ込んだのが、その時の課長級、係長級がやっぱり順々になつていて交流も人材登用もできない。これは全国的傾向だ。無理に交流すれば半年ぐらゐ何にも仕事ができない空白を作る。そういうことで、人材登用と人事の交流はきつめてめんどうであつて、皆さん方からも相談相手になつてもらいたい。有能な人がいつまでも下つばにいてやめてしまふのも同じ級にいても有能な人は、それだけ上げるようにしてゐるし、特に高校卒の女の子は、よほど給金をはすまなければ田舎の役場になんかはいない者はない。

第二表も、別に町村長が作つてくわといつたのじやない。あれが一番バカをみるのが自動車の運転手だ。町村役場の運転手は単純労働者になつてゐるのだから、危険

手当てとか、特別昇給をしてバランスをとつてゐる。特に病院の運転手みたくに夜間超勤してゐる人なんかは損なのだ。プルの運転手もそうだ。これは町長がした仕事でじやなく、結局職組や自治労から心配してもらわなくてはならぬ。
(高橋総務課長) 第二表は県で条例の準則を示して、それによつて作つた。
給与が他町村に比して低いかどうかという問題は、三十八年九月一日現在の給料表をその後本年九月一日で改正したが、額は従前どおりなので当分給という名称で支給してゐる。したがつて給料表からみると格差が出てゐる。個人個人については検討しないとわからない。

初任給については、私どもの町では「初任給昇格、昇給等の基準に関する規則」を使つてゐないの規則どおりの履歴とか、学歴をみるということをしてゐない。給料表の二表は中学卒の者が三等級の一号級になつてゐるが、採用年度によつて給料表より安いものがある。そういうことで、高いか安いかにいふことは、その中の因子によるので簡単には言えない。

超過勤務については、条例では百分の百二十五、深夜業百五十となつてゐるが、本俸の二パーセントしか計上してゐない。他町村では五パーセント程度であるが、正規に支給してゐる町村はまれである。町でも診療所では正規に支給してゐるが、役場ではブル運転手が一時間六十円、一等級五十円、その他四十円というように打ち切り支給してゐる。正規に支給する

人事交流は、規模の小さい町村にはめんどうなのだ。結局最後には町村も定年制になると思う。町村合併で流れ込んだのが、その時の課長級、係長級がやっぱり順々になつていて交流も人材登用もできない。これは全国的傾向だ。無理に交流すれば半年ぐらゐ何にも仕事ができない空白を作る。そういうことで、人材登用と人事の交流はきつめてめんどうであつて、皆さん方からも相談相手になつてもらいたい。有能な人がいつまでも下つばにいてやめてしまふのも同じ級にいても有能な人は、それだけ上げるようにしてゐるし、特に高校卒の女の子は、よほど給金をはすまなければ田舎の役場になんかはいない者はない。

第二表も、別に町村長が作つてくわといつたのじやない。あれが一番バカをみるのが自動車の運転手だ。町村役場の運転手は単純労働者になつてゐるのだから、危険

手当てとか、特別昇給をしてバランスをとつてゐる。特に病院の運転手みたくに夜間超勤してゐる人なんかは損なのだ。プルの運転手もそうだ。これは町長がした仕事でじやなく、結局職組や自治労から心配してもらわなくてはならぬ。
(高橋総務課長) 第二表は県で条例の準則を示して、それによつて作つた。
給与が他町村に比して低いかどうかという問題は、三十八年九月一日現在の給料表をその後本年九月一日で改正したが、額は従前どおりなので当分給という名称で支給してゐる。したがつて給料表からみると格差が出てゐる。個人個人については検討しないとわからない。

初任給については、私どもの町では「初任給昇格、昇給等の基準に関する規則」を使つてゐないの規則どおりの履歴とか、学歴をみるということをしてゐない。給料表の二表は中学卒の者が三等級の一号級になつてゐるが、採用年度によつて給料表より安いものがある。そういうことで、高いか安いかにいふことは、その中の因子によるので簡単には言えない。

超過勤務については、条例では百分の百二十五、深夜業百五十となつてゐるが、本俸の二パーセントしか計上してゐない。他町村では五パーセント程度であるが、正規に支給してゐる町村はまれである。町でも診療所では正規に支給してゐるが、役場ではブル運転手が一時間六十円、一等級五十円、その他四十円というように打ち切り支給してゐる。正規に支給する

手当てとか、特別昇給をしてバランスをとつてゐる。特に病院の運転手みたくに夜間超勤してゐる人なんかは損なのだ。プルの運転手もそうだ。これは町長がした仕事でじやなく、結局職組や自治労から心配してもらわなくてはならぬ。
(高橋総務課長) 第二表は県で条例の準則を示して、それによつて作つた。
給与が他町村に比して低いかどうかという問題は、三十八年九月一日現在の給料表をその後本年九月一日で改正したが、額は従前どおりなので当分給という名称で支給してゐる。したがつて給料表からみると格差が出てゐる。個人個人については検討しないとわからない。

には二パーセントや五パーセントではとても足りない。将来は条例どおりにやらなければならぬと思ふが、現状はそうである。それから公民館職員については事務屋であつて事務屋でないという状態で他町村では月二千円なり三千円の打る切り超勤手当を支給している例が多いが、当町では支給していない。

給料表の二表については、県から作りなさいといわれたもので、小使、運転手、炊事婦等がはいっている。一表に比べて昇給間差が少ないので、内容については考えなければならぬが、これも県の地方課の準則によつて作つたもので当分のままでいかなければならないと思ふ。

年末手当については、期末手当の二分、勤続手当の〇、三月分は当然支給される。二、五というものは、いわゆるベスアツプによつて〇、一ずつ上がったものを、いつしよにもらいたという職員の要求である。オラスアルファア五千円というのは私の論外である。勤務状態のごとであるが、勤務評定については地方公務員法に明示されてあるが、これを適確にやるには、くれるものを正規にけれなければ問題であるということだ。三魚沼の総務課長会議でも激論された。たゞいまの実態では、教育公務員のように勤務評定をやることは危険じやないかということだ。当分の間研究するということになつた。むしろ、町長の考へて、あの人物はこうだということはやつていふと思うが、勤務評定を表にあらわすということは当分はでき

ないと思ふ。待遇の問題は職組と話し合つて

待遇の問題は職組と話し合つて

(中村町長) 職組の言うこともわかるし、中央への運動にしても自治労はきつめて紳士的、その点当局も認めている。

ここにベスの改定が出て、給与の引き上げをしなければならぬが、それには盲点が三つある。その一つは標準給与をうわまわる分について交付税はくれないというのだ。それで標準給与とは何かというのが問題なのだ。交付税の算定では標準財政需要額の中にパーセンテージとしてはいつている。その率を標準財政需要額に掛けて出した額を、町の標準職員数で割るのか、または現在職員数で割るのかわからない。とにかく川西町では標準給与の額に達しない金額はどれくらいかということを出してくれといつたのである。

一方、国では、給与は上げなくてはならぬが金がない。借金をしてまかなうから不足分は自己財源で出せといふのである。折衝の結果百五十億は借金で、これは四十年、四十一年で元利補給をしてくれるといふのだ。そして、それは別に百五十九億を交付税で出す結局このあいだ協定したので総額三百四十八億だから差し引き三十九億が足りなくなるが、それは当初予算の節約による自己財源でまかなえといふ。どこだつて節約できるものをして税金をとつてくる市町村はない。そこで、町が

自己財源でまかなわなければならぬ分がいくらあるという計算をしないでならぬ。どうせ川西町の職員給与は、平均給与より低いそれをベスアツプしたり、その他の補助金、交付金等についてどれくらいの予算を組んだらよいか平均給与といふものは、わからぬけれども、ある程度信用のできる数字はつかまれると思ふ。

最後にオラスアルファアだが、これは給与の二重引き上げだといふので町村会では否決した。自己財源の抽出までして給与の引き上げをして、さらにオラスアルファアといふことは住民の反感を買うことになるといふのだ。けれども中瀬原とか西瀬原は、県庁をはじめ、オラスアルファアした官庁が近いので、いくらかずつ出したらしい。そういうことで、オラスアルファアについては隣接町村とも話し合つたり、県の様子も聞いて取り扱う。

人事院勧告に伴うものについては、先ほど申し上げた系数のことはあるけれども、ご用納めまでに給与ベスが本決まりにならないとすれば、九月からの引き上げ分について暫定払いでも支給しようと思つている。

交通 協力者の立場で事故防止

交通 協力者の立場で事故防止

(田中三郎氏) 人事交流についてはむすかしいと思ふが、役場に長年勤めても、希望と進路が定まらなければならぬ。他官庁は相当な年令になると嘱託制度を設けてその人の生活安定をはかっている。町全体の問題として考慮すべきではないか。

オラスアルファアの問題は、パーセンテージだけでいくと、上に厚く下に薄くなる。そこにバランスをとるためにオラスアルファア

人事院勧告に伴うものについては、先ほど申し上げた系数のことはあるけれども、ご用納めまでに給与ベスが本決まりにならないとすれば、九月からの引き上げ分について暫定払いでも支給しようと思つている。

だが、ひとりひとりになると問題がある。それは、四人以上の者が同じ身俸になると、いちばん上の人は減俸と同じことになる。それが七人も同じになるがある。結局ひとりひとり十分な満足を与えることはできないが、全般を眺めて、これなら喜ばなければならぬといふ気持ちで、この問題を解決してもらいたいということだ。職組とも話し合つた。

それから超勤については、超勤した人個々に払つたがよいが、または一年中の数字を一本にして職員に支給して、相談の上分けたがよいか、おまえさん方の好きなようにしてくれと言つた。

というものを考へてほしいというのが職員の希望ではないかと思ふ。最後に交通事故防止の問題である。県でアンケートをとつたら、交通事故は、市町村からもう少し本腰を入れてくれたら、また防止ができるのではないか、という答えが六十五パーセントあつた。これについて町長の所信を伺いたい(中村町長) オラスアルファアの取り扱いか、人材登用と適所適材のことについては先ほど申し上げた。要するに、静かに考へてそれぞれのことをやつていくというより仕方がない。

川西町

川西町の商工業

(滋野一郎) 先ほど来からの説明にもあつたが、人口流出はおろそかにできない問題である。これを食い止めるために当地に工場を誘致する考へはないか。十日町織物工場を誘致して成功している川西町においても上野までの無雪道路を延長して、十日町織物、あるいは小千谷の鉄工業の誘致に乗り出してはどうか。

また、これに伴う十日町市のベツドタウンといふことを考へているかどうか。町民にはこのことを真剣に考へている人も多いが、これに対してどのような施策をやるうとしていくか。

上げた。要するに、静かに考へてそれぞれのことをやつていくというより仕方がない。

交通事故はもう世界的なものだこれは警察といふ職権をもつた機関があるので、われわれはそれに協力するといふ立場である。町でもそうした心配は消防係がやつているが、協力者であるといふ立場よりどうしようもない。

結局、若い人は十日町とか松屋さんへ行つて嫁は下請けをやることだ。ハタ屋もいよいよ、農家も思ふられるといふことじやないか。そういう機構で考へていくよりも、言つてみようがない。これは将来に及ばず大きな課題だから、ほかに名言卓説があつたらさかせてもらいたい。

未使用の年賀はがきについて
お年玉つき年賀はがきの使い残りのものを一月十一日以後に使用する場合は、必ず一円切手をはりたして使用してください。もしそのまま使用すると、あて先で不足料金の二倍(二円)を徴収されて、先方に迷惑をかけることになりまますから注意してください。

テレビの見方

NHK放送文化研究所では、さきごろテレビを見るときの望ましい条件のいくつかを発表した。

- それは次のようなものである
- ①まわりの明るさは二五ルクス(五〇ルクスで、一般にものを見る場合)まわりの明るさが対象の明るさよりも明るいとよくない
- ②見る方向は左右十度の範囲内で
- ③受信機の高さは画面の中心が目の高さよりやや下になる位置におくこと。

国保七割給付の実施

被保険者証が更新されました

町では国保被扶養者(家族)の療養の給付割合を七割とし一月一日から実施いたしました。

したがって世帯主とも全員の窓口支払いが三割となりました。

被保険者証も更新しておどけましたが誰と誰が被保険者になっているかを確認して異動がありましたらすぐ届けてください。また今回は被保険者証の番号にも変更があつたので医療を受けるときは必ず持参してください。

窓口提出しない場合には医療機関にその日の医療費の全額を支払わなければなりません。

無効となつた古い被保険者証は返納してください。また学生に交付してある被保険者証は家庭から連絡をとつて交換したうえ返納してください。

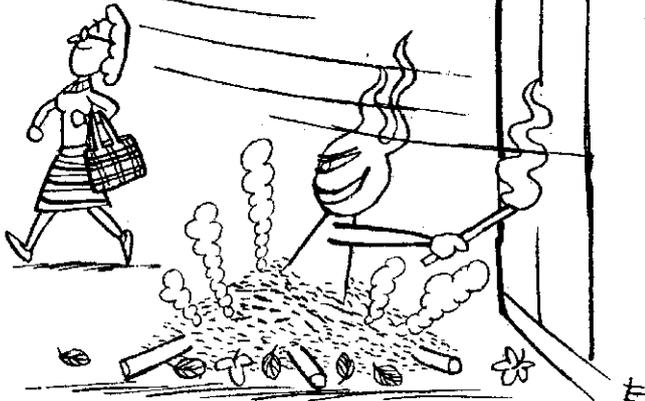
保険料の納入について

本年度は十一月に保険料の大半を増徴をしたにもかかわらず納入実績がよく喜んでおります。

いつも申し上げているとおりこの保険料は医療費の支払いや保健活動のための大きな財源であります。納入についてご協力をおねがひします。

残り火に注意

跡仕末しないと
ホレホレホレ……。



医療費の値上げについて

医療費の値上げは医療費の緊急是正という言葉で九五パーセントをあげる方針が決まっております。その値上げの方法(内容)については暮に大きな政治問題として中央医療協議会のこと新聞をにきわした訳でしたが決定しないまま年を越しました。

しかし値上げは必ず行なわれるわけであるという形であるがこれからまた協議されることになるので新聞面にご留意ください。

給付が七割となつて患者の負担は軽くなつた訳ですが医療費の値上がりがあればそれだけ負担が多くなります。

いつもいう「早期診断、早期治療で病は軽いうちになおす」ということに心がけなければならぬ時期になつたと思ひます。

からだの具合が変だと思つたら近くのお医者さまで診察をうけましょう。

心身障害児救済

感謝の献金を

このたび県内母子健康センターに働く人たちの善意から、新潟県内の心身障害児を助けようと、新潟県はか十六団体の後援で、一月一日より献金運動をおこなすことになりました。心身障害児は、本人はもちろんのこと、その家庭及び関係者の精神的、経済的そして肉体的な苦勞は大変なものです。しかも、県内には五千四百余名と推計される心身障害児がおります。

戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに

樋口 澄子 茂 二女 上野
中嶋 直光 勇治 二男 田代
和田 幸宏 莊太 二男 仁田
相馬 章 敏夫 二男 木落
小川 雅子 昭一 長女 鶴ヶ沢
引間 英子 安策 長女 中仙田

- たかさご—御円満に
- ◎新太郎 五十川庚平 学校町
 - ◎新太郎 数藤 幸子 沖立から
 - ◎新太郎 高橋 紀三 伊友
 - ◎新太郎 入道 綾子 見附市から
 - ◎新太郎 佐藤 幸男 伊友
 - ◎新太郎 数藤伊佐子 沖立から
 - ◎新太郎 相崎 由一 沖立
 - ◎新太郎 小林久美子 十日町市から
 - ◎新太郎 須藤 基 四郎兼
 - ◎新太郎 須藤 カツ 四郎兼から
 - ◎新太郎 村山 好和 木島
 - ◎新太郎 村山 和子 伊友から
 - ◎新太郎 水品 幸夫 新町新田
 - ◎新太郎 星名カズコ 霜 條から

- 昇天—御めい福を祈る
- ◎新太郎 小海 久雄 小根岸
 - ◎新太郎 吉津 千春 津から
 - ◎新太郎 上村 良一 上野
 - ◎新太郎 水品 幸子 新町新田から
 - ◎新太郎 上村 寛治 上野
 - ◎新太郎 高橋ナツ子 伊友から
 - ◎新太郎 田口 正敏 木落
 - ◎新太郎 片桐ユミ子 木落から
 - ◎新太郎 田口 健三 木落
 - ◎新太郎 高橋 和子 三 領から
 - ◎新太郎 春日 甚二 仁田
 - ◎新太郎 塚田 スミ 真人町から
 - ◎新太郎 中川 優 仁田
 - ◎新太郎 樋口 節子 十日町市から
 - ◎新太郎 山口 功 仁田
 - ◎新太郎 高橋 幸子 十日町市から
 - ◎新太郎 野澤 定吉 仁田
 - ◎新太郎 鈴木婦美子 東京から
 - ◎新太郎 森野 藤一 仁田
 - ◎新太郎 羽鳥 信子 田から
 - ◎新太郎 羽鳥 武男 木落
 - ◎新太郎 生越スミエ 十日町市から
 - ◎新太郎 小幡 満 仁田
 - ◎新太郎 中村トシエ 坪山から
 - ◎新太郎 清水 誠 寺ヶ崎
 - ◎新太郎 中坂 笑子 川口市から

- 一赤ちやんをお産みのおかあ様がたへ、じょうぶな赤ちやんを恵まれた喜びを心身障害児に分けてください。
- 二子どもの入学式を迎えるおとや様がたへ、すこやかに育つて入学される子どもさんの喜びを心身障害児に分けてください。
- 三成人式を迎える皆さんへ、めでたく成人式を迎える皆さん、きょうまで育てた両親への感謝の気持ちを心身障害児に分けてください。

- 四結婚される皆さんへ、新婚のあなたの家庭もやがて元氣な赤ちやんが恵まれることでしょう。この喜びを心身障害児に分けてください。
- 募金箱は川西町役場へ設置されてあります。各出張所でもつけようです。一感謝の献金—と指定して寄託ください。献金された浄財は県内のこれら心身障害児の収容施設の整備拡充や個人の療養援護のために使われますのでご協力を願ひいたします(社会係)
- ◎新太郎 片桐 定治 小白倉
 - ◎新太郎 片桐 信子 小白倉から
 - ◎新太郎 江口 守 小白倉
 - ◎新太郎 山路ナツ子 横浜から
 - ◎新太郎 茂野 好一 藤沢
 - ◎新太郎 武内ナツ子 長崎市から
 - ◎新太郎 小林 弘 藤沢
 - ◎新太郎 田村 芳江 鶴吉から
 - ◎新太郎 高橋 俊男 高倉
 - ◎新太郎 曾我 圓子 豊栄町から
 - ◎新太郎 小林 清彦 中仙田
 - ◎新太郎 近藤アキエ 新潟市から
 - ◎新太郎 高橋 義正 中仙田
 - ◎新太郎 浅井 弘子 入広瀬村から
 - ◎新太郎 喜多 善吉 四郎兼 八八
 - ◎新太郎 池竹 サキ 原田 八八
 - ◎新太郎 小滝 チイ 永久公舎 八二
 - ◎新太郎 野上 音蔵 田中 八〇
 - ◎新太郎 北村 カツ 上野 七九
 - ◎新太郎 羽鳥 ヨシ 伊友 七九
 - ◎新太郎 村越 奥吉 野口 七一
 - ◎新太郎 藤巻 徳松 塩 辛 六四
 - ◎新太郎 蔵品 喜治 霜 條 六二
 - ◎新太郎 南雲 周二 中屋敷 六〇

洗心齋、人それぞれの感慨をこめて新しい年をむかえたことである。昭和と同じ年のわたしも数えて四十になった。人生のなかに過ぎたいま、ちよと、戦争と平和の時代を二分して生きたことが感無量である。平均余命にしたがえばあと二十七年と二十月の命しかない。ゆく川の流れば、とさとした先人のことはをかみしめ、残されたしあわせを悔なく生きてゆきたいと思う。

長い人生の旅路を、この土地に愛着を感じて生きぬいてきた。苦しかった時代も、今はただなつかしく思い出すのみである。これからはあわせに生きて、この部落で一生を終りたいものだ。それにしても、なきがらを四つ石の上

続々と

北海道冷害農家へあたたかい手

北海道の冷害農家を救おう、という呼びかけに対して町民各位のあたたかい救いの手は、歳末の忙しい折にもかかわらず、封筒募金に、あるいは寒空の街頭に、また職場、学校に善意を持ちより、続々と集まっています。係ではさつそく日本赤十字社新潟県支部を通じて北海道冷害農家へ送金いたしました。ここに厚くお礼を申し上げます。

※封筒募金 二、四〇六件
八八、八六六円

※窓口受付分

上野青年学級生 三九四円

に乗せられ、原始的な火葬に付されて昇天するのはイヤだという中仙田の老人たち(ニコニコ会、小林猪作会長)が、部落に頼んでりつばな火葬場を作ってもらった。近代的な建物の中にマスをすえ、コシや冬期間のソリなども加えられた総額五十万円というデラックスな設備である。いつかは、だれもがたどる道なのに、こうしたことはなかなかできないもの、それを、あえて実現してくれた人たちに敬服したい。

社会教育

この冬、母が村のまわったより工場へ通うことになった。成人した子が八人もありながらまだ働かせようというのかと指摘するご仁もあろう。しかし、ある晩、自分の

働いた金で日光見物をしたい、といわれて貧、しないわけにはゆかなかつた。母にとつては、一日中家でノンビリしているよりも、仲間のある工場で仕事をしながら、ごすことのほうがけつこう楽しいらしいようです。母が希望をもち、自分からすすんで働けるような家庭環境をつくつてやつたことが、たいじな親孝

行の一つであることをととつた。春になつてもし金が足りないといつたらその分を出してやる。人目にとだわつたり、ムヤミにいたわつたりしすぎることはかえつて税不孝のそりを招く結果にもなるわけ、年よりに生きがいを、まわりで適当な仕事をあたえてやる

ことをせよと考えていた。岩瀬から役場まで十二、六キロバイクで二十二分かかる。東京でこれに相当する区間はないかと探がしたらあつた。京浜東北線の上野から大井町までの区間、キロ数も所要時間も同じである。国鉄の運賃は二等で四十四円、バイクは、原価償却を別に計算すると維持費もさほど変わらないことがわかつた。こと通勤にかけては東京よりラクだろう、任めば都というけれどこの川西で一生涯終わるつもり。だが、雪だけはごめん。ひととつ、山のどてつばらにトンネルをふちぬくような運動はおこせなものか。それがダメなら、せめて、仙田国道の無雪を確保する初年度にしてみたいものだが。

ウエストリバーブラス楽団 一〇〇〇円
十高千手分校職員生徒一同 一、四四六円
千手小五年生一同 一、一三六円
※合計 九六、二四二円
(十二月末日現在)

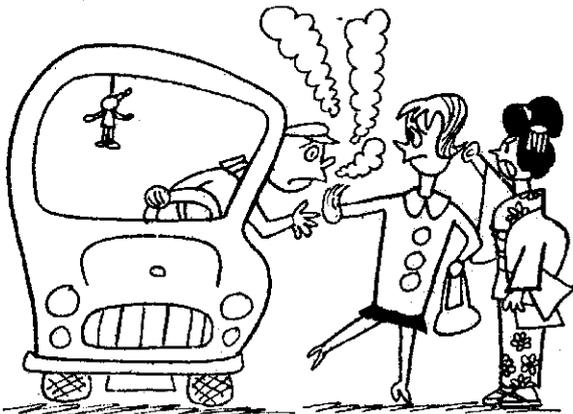
役場職員も

北海道の冷害農家救済の手は各所で広範囲な動きをみせている。役場でも昨年くれ職員労働組合が中心となつて全職員によびかけ、一人五十円以上のカンパを実施したところ総額で七千三百円があつたので、これをさつそく関係筋を通じて被災地に送金した。

☆酔払い運転おことわり

"アンタ...クサイわよ..."

ダメダメ...



くらしのメモ

▲新年おめでとうございます。
昭和四十年、西暦一千九百六十五年。

ことしこそ交通事故皆無の町に

田中 与三郎
田中 与三郎

昨年をかえりみずと、正月三日の初事故から大小数多くの交通事故が町内で発生しております。郡市内でも十一人の死者と百二十人の重軽傷者を出しております。この中で川西町だけの例をあげますと件数九死一傷者十二ですが県全体の統計では毎日一名づつの死者が出、全国での交通事故死者の数がついに一万三千三百名となつたことが一月四日のラジオ放送で報じられました。一日平均三十六人強の痛ましい交通事故の犠牲者が毎日どこかで出ているということであります。ことしこそ、町民一致してこの災禍を防止しなければなりません。交通事故の原因となる一番大きなもの酒飲運転、速度違反、無免許運転となつております。事故の原因となるものには歩行者側においても十分その責任を負わなければならない点がありま

さて、このところまったく使われなくなつた日本紀元では何年でしょうか。紀元二千六百二十五年になります。ついでながら明治以来八十五年、大正以来では五十四年になります。

すが、運転者も歩行者も道路交通法規を遵守するお互いの自覚と、互譲の精神さえあれば不可抗力の場を除いて、交通事故を大巾に防止することが出来ます。欧米を視察した人々が異口同音に言われることはアメリカにおける交通道徳は全く徹底していて道路

またバイクにも強制保険加入の制度が施行されますが何んといつても事故を防止することに一致して努力しなければなりません。そのためには学校教育における根本的な交通道徳の教育に始まり、社会教育における一般家庭教育の徹底をはかり、ことしこそは川西町における交通事故皆無の年としたことを祈念してやみません。

ことしは 中間農業センサスの 年です

来る二月一日現在で一九六五年中間農業センサスが実施されます。この中間農業センサスとは一九六〇年に実施された世界農林業センサスが、国際条約に基づいて十年ごとに実施されるのに対して、その中間年次である五年目にはわが国が独自で実施するもので、内容的には一九六〇年に実施された世界農林業センサスに準じて実施される国の指定統計調査です。

調査をうける世帯

センサスの調査対象となるのは農家ですがこの調査では次のような世帯が調査対象となります。

妻有荘を慰問して

婦人学級の学習計画の中に、老人の気もちを理解しよう、というテーマがあげられていました。それで、さる十二月十四日に、会員一同で中魚沼養護老人ホーム妻有荘を慰問してまいりました。妻有荘に到着したのは十時ごろだったのですが、か、五十二人のお年よりたちが首を長くして待っていてくださいました。わたしたちは半分けして各室にお伺いし、肩を叩いてあげたり、昔の話をきかせていただいたり、よろこんでくださるままに時間のためにも忘れられるくらいでございました。大広間にはりつばな仏壇がそなえられ、テレビなどの

- 1. 経営している耕地面積が一反歩以上の世帯。
- 2. 経営耕地面積が一反歩以下であつてもこの一年間の農業生産物の販売総額が三万以上ある世帯。

調査する人

調査を担当する人は町長が推せんし農林大臣から任命されている一九六五年中間農業センサス調査員一で調査員は大部分がみなさんの部落の人たちです。

調査のしかた

調査のやりかたは調査員の人たちが農家を訪問し世帯の代表者または代りのかたに直接お会いし、調査票に記入することになります。

調査内容

調査内容は大体次のとおりです

- 1. 世帯員の働き方
- 2. 経営耕地の種類と面積
- 3. 家畜飼養頭羽数
- 4. 農用機械の種類と台数
- 5. 雇用労働
- 6. 農産物の販売価額
- 7. 山林

以上がこの調査のあらましですが、この調査は転換期にたつわが国の農業の発展上きわめて重要な調査であり、農業諸施策および農業

不動産取得税【県税】の申告をしてください

家を新・増・改築された方は役場経由で財務事務所へ申告することになっております。申告用紙は財務事務所が役場（建築係）に用意してありますから申し出て下さい。この申告をおこたりますと過料を科されることがありますからご注意ください。（十日町財務事務所）

建築基準法第十五条の 届け出について

建築主が建築物を建築する場合は建築物の除却するときは工事着手前に役場経由で県知事に届け出なければなりません。ただし建築物の床面積の合計が延一〇㎡（三坪）以内の場合においてはこの限りでない。

- 1. 附近見取図
- 2. 配 置 図
- 3. 各階平面図
- 4. 矩 計 図

業に關して行なう諸統計調査に必要な基礎資料となるものです。この調査がかりつばに行なわれましよう特段のご協力をねがひたいいたします。

なお、この調査結果は、課税その他みなさんの不利益になるような目的には使用されないので、安心してご利用いただけます。調査の正確を期するためありのままを教えてください。

ねずみがこれだけ とれました

去る十一月十日から十二月十日までの一カ月間、県下いっせいに

展開されたねずみ駆除運動に全町あけてご協力いただき昨年度以上の成績をおさめ、無事終了いたしました。

各町内の公衆衛生推進委員の方々がはじめ、この運動に積極的にご参加、ご活動くださったみなさんに、あらためて厚くお礼申し上げます。

結果成績は次のとおりですが、

当町では、ささやかな景品をそえてこの運動の報いいたし、すでに現物を配布し終わっておりますが、これを機会に私どもの生活を環境の浄化につとめましよう。

- 川西町全域 三、三三七匹
- とれた世帯数 七九〇世帯
- 個人別ベスト・セブン
- 三領 高橋直治氏 五二匹
- 発通り宮 泰吉氏 三七匹
- 霜条 金山良晃氏 三六匹
- 寺尾 白井彦治氏 三〇匹
- 寺尾 清水昌作氏 三〇匹
- 沖立 柄沢一郎氏 三〇匹
- 沖立 相崎芳太郎氏 三〇匹
- 各地区各人賞受賞者
- 上野地区 高橋直治氏
- 千手地区 宮 泰吉氏
- 橋 地区 滋野永勝氏
- 仙田地区 川崎正平氏

（国保衛生課衛生係）

採用（十二月一日付）
半藤 伊三郎
退職（十二月三十一日付）
高塚 コメ
橋 診療所

かわにし俳壇
新年俳句
太田白南風選
小林たみい

○ならわしの豆木を焚きて初かま
○若水をたたえて桶の古めかし
旧姓を小さく添えし年賀状
南雲 良子

○初髪四十路のわれをつつまし
妻の座の二十年なり初詣
新 子

雪下駄の音のひびきて初詣り
出産の予定日も添え年賀状
江口 凡石
誰彼の客つきつきと松の内
たかし

末の娘の縁談決り四方の春
踏みしめるわた雪の音初もうで
登坂 清吾
新年を祝う若人はつらつと
小川 和好

年頭の炬火受け父の笑顔あり
初もうで大ローソクのおかあかと
高橋 信治
書ぞめの太き一字のやや曲り
金子 湖月

初詣で老杉雪を落しけり
四五枚の賀状に親しみ深きかな
北村 桐舎
七草のすずしる細き千切りに
小正月迎うる餅を五升ほど
太田白南風

年賀受く炬の父の座に父として
ひとすじに三山を抱き初霞